教育重視・実学の神大

米田は、1965（昭和 40）年 11 月 1 日に開催された創立 37 周年記念式典の式辞で、「大学の在るべき姿」として、「“大量教育を排す”」「“教育不在”を憂う」「大学本来の型」を語り、自身の求める大学像を示しました。

「“大量教育を排す”」では高度経済成長期の大学でみられたいわゆるマスプロ教育を批判し、「“教育不在”を憂う」では責任ある教育の実施を力説します。そして「大学本来の型」として、大学は「学問を通して人間形成をする」ところであることをあらためて指摘し、研究に裏付けられた教育の必要を強調します。

こうした考えを背景に神奈川大学では、教育組織の拡充を図るとともに、少人数によるゼミナールや卒業研究を必修制として徹底するほか、クラス担任制度や専門学校以来貿易科で行ってきた語学を中心とした実学教育、大学院の開設等を進めていきました。

神奈川大学報

創立37周年記念式典 学長式辞

本学の概要

本学の目指すもの

大学の在るべき姿

大学本来の型

創立 37 周年記念式典での学長式辞
『神奈川大学報 第 75 号』（1965 年）

在学生父母との繋がりを強化して地方で父兄懇談会を開催
福島会場で挨拶する米田（1965 年）